胸膜炎患者胸液ノ性狀及動物試驗

海軍軍醫大佐　氏家孝次郎
海軍軍醫大佐　勝正吉
海軍軍醫大尉　加藤靜市
海軍看護兵曹長　山村登夫

一、胸液性狀檢査

余等ハ吳海軍病院ニ入院シタル胸膜炎患者ヨリノ採取セシ胸液ノ色調、性(反應)透加度、比重リバルタ氏反應竝ニ蛋白含有量ニ就キ檢査シ更ニ動物ニ胸液ヲ注射シテ結核菌發育ノ有無ヲ檢シタルニ其ノ成績次ノ如シ。

胸液ノ性狀檢査成績表

第　一　表

等級	種目／氏名	病名	月日	色調	性	透明溷濁	比重	リバルタ反應	蛋白%(末吉)	菌陽否
三主	[redacted]	左胸膜炎	3.8	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.023	强陽性	70	不
三機	[redacted]	胸腹膜炎	3.10	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.025	强陽性	60	+
二機	[redacted]	肺結核 左胸膜炎	4.8	血性紅色	弱「アルカリ」	溷濁	1.023	强陽性	60	不
二看	[redacted]	肺結核 右胸膜炎	4.11	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.022	强陽性	60	+
二機	[redacted]	左胸膜炎	4.12	血性紅色	弱「アルカリ」	溷濁	1.023	强陽性	30	++
三水	[redacted]	右胸膜炎	5.1	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.021	强陽性	80	++
三看	[redacted]	左胸膜炎	5.4	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.022	强陽性	65	+
三水	[redacted]	右胸膜炎	5.5	橙褐色	弱「アルカリ」	半不透明	液不足	强陽性	不檢 液不足	注射翌日全部死亡
四水	[redacted]	左胸膜炎	5.11	赤褐色	弱「アルカリ」	溷濁	1.032	强陽性	70	+
學生	[redacted]	左胸膜炎	5.11	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.022	强陽性	65	+
一水	[redacted]	右胸膜炎	6.8	橙黃	弱「アルカリ」	透明	1.027	强陽性	100	+
四機	[redacted]	右胸膜炎	6.12	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.020	强陽性	80	+
二水	[redacted]	左胸膜炎	6.22	淡黃	弱「アルカリ」	透明	1.032	强陽性	70	+
三水	[redacted]	右胸膜炎	6.22	橙黃色	弱「アルカリ」	半透明	1.036	强陽性	60	+

第　二　表

等級	氏名	病名	色調	清濁	反應	比重	リバルタ反應	蛋白%	菌陽否
三機	[redacted]	右胸膜炎	淡黃色	殆ド透明	(檢セズ)				+

四船	[redacted]	「クループ」性肺炎 胸膜炎	淡橙黃色	殆ド透明	(檢セズ)				−
一機	[redacted]	右胸膜炎、肺結核 (3月16日結核ニ輕症)	淡橙黃色	殆ド透明	中性	1.025	强陽性	7.0	不
三水	[redacted]	右胸膜炎	帶綠淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.025	强陽性	5.5	−
	第2回		帶綠淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.025	强陽性	7.0	−
三水	[redacted]	右胸膜炎	(檢セズ)						−
三水	[redacted]	左胸膜炎	(檢セズ)						不
三主	[redacted]	左胸膜炎	帶綠黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.022	强陽性	6.0	不
	第2回		帶綠黃色	透明	弱「アルカリ」	1.022	强陽性	4.0	+
一主曹	[redacted]	左胸膜炎	微紅褐色	微濁	弱「アルカリ」	1.026	强陽性	6.5	+
三看	[redacted]	右胸膜炎	帶赤色	微濁			强陽性	7.0	不
二曹	[redacted]	(右胸膜炎) 左右胸膜肺炎	帶褐黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.027	强陽性	7.0	+
	第2回			(檢セズ)					−
生徒	[redacted]	右胸膜炎	帶黃赤色	(檢セズ)					−
	第2回		帶赤褐黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.026	强陽性	7.0	+
四水	[redacted]	右胸膜炎	淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.025	强陽性	5.5	+
生徒	[redacted]	右胸膜炎	帶褐淡黃色	微濁	中性	1.029	强陽性	5.0	+
給仕	[redacted]	右胸膜炎	淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.035	强陽性		不
二機	[redacted]	右胸膜炎	(檢セズ)						+
機曹長	[redacted]	右胸膜炎	帶褐淡黃色	微濁	中性	1.035	强陽性	9.0	+
四水	[redacted]	左胸膜炎	淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.026	强陽性	5.0	+
二機	[redacted]	右胸膜炎	淡黃色	微濁	中性	1.035	强陽性	6.0	+
二看曹	[redacted]	左胸膜炎	淡黃色	微濁	弱「アルカリ」	1.031	强陽性	6 0	+

備考　1. 病名中肺結核胸膜炎トアルハ何レモ最初胸膜炎ニテ入院シ加療中喀痰鏡見上結核菌ヲ證明シタルモノ

2. 表中菌陽否トアルハ胸液動物實驗ノ成績ニシテ(+)トアルハ試驗動物ニ結核菌ヲ證明シタルモノ

(イ)胸液リバルタ反應ニ就テ

高サ22—25糎内容200瓩ノ割度ヲ刻シタル硝子筒ニ餾水200瓩ヲ入レ氷酷酸二滴ヲ混ジ穿刺液一滴ヲ注射器ヨリ落下シ穿刺液滴ノ沈下ノ度合卽チ落下液滴ノ消失シタル度目ヲ記シタリ採取穿刺液滴ハ第一表第二表共ニ管底ニ至ルモ尙消失セザルモノヲ强陽性ト記セリ。

(ロ)胸液比重ニ就テ

比重1.022—1.025位迄ノモノハ透明ナルモノ多ク1.025—1.026以上ノモノハ微濁ノモノ多ク比重、重クナルニ從ヒ溷濁ノ度ヲ增加ス。

二、動物實驗方法

(1)動物ハ海猪200瓦—300瓦内外ノモノヲ豫メ「ツベルクリン」6倍液(舊「ツベルクリン」)0.1瓩皮内卽應ヲ檢シ其陰性ナリシモノヲ使用セリ、胸液ハ2%枸櫞酸曹達水20瓩ヲ入レタル「コルベン」ニ胸液100瓩ヲ混入シ全量ヲ强力遠心沈澱ヲナシ沈渣液ヲ皮下ニ5瓩腹腔ニ10瓩ヲ注射ス。試驗動物ハ皮下2匹腹腔2匹ヲ使用ス。

(2)表中原液トアルハ採取セル胸液ヲ速カニ皮下ニ5瓩腹腔ニ10瓩ヲ注射シタルモノヲ云フ。試驗動物ハ皮下1匹腹腔1匹ヲ使用ス。

(3)沈渣ヲ注射スルモノハ皮下1匹、腹腔1匹トシタルモ中途ヨリ遠心沈澱上淸液5瓩ヲ皮下ニ注射スルモノ1匹10瓩ヲ腹腔ニ注射スルモノ1匹ヲ加ヘタリ。

(4)一患者胸液ヲ使用セル動物ハ合計6匹ニシテ每回蒸氣滅菌セル同一箱中ニ飼養セリ。

(5)注射後約二ケ月以内ニ任意ニレーメル氏反應(6倍舊「ツベルクリン」液0.1皮内注射)ヲ試ミ强陽性ヲ示セシモノハ直チニ解剖ニ附シ其後1ケ月乃至3ケ月後ニ於テ陽性ナルモノヲ解剖ニ附シ全ク陰性ニシテ淋巴腺腫脹等ノ變化ヲ認メザルモノハ檢査ヲセザリキ。

(6)結核菌檢索ハ淋巴腺及其ノ臟器ニシテ結核性變化ヲ有スル部ノ膿及組織液ヲ塗抹標本トシチール、チルセン氏法ニ依リ染色鏡檢セリ。塗抹標本ニテ菌陰性ナリシモノハ結核性變化ヲ有スル臟器ヲ切片トナシ檢索セリ。

(7)動物實驗表中培養トアルハ採取胸液2瓩ヲベスレドカ培養器ニ加ヘ培養シタル成績ニシテ(+)トアルハ培養基ニ結核菌發育シタルモノナリ。

動物實驗表

番號	等級氏名	病名	發病年月日	入院年月日	胸液採取月日	動物 注射部位	注射液別	注射液重	麻醉殺時重	動物存日生數	培養	塗抹標本	陽性ノ臟器	肉眼的ニ結核病變ヲ認メタル臟器
1	三主兵 [redacted]	左胸膜炎	3. 2. 23	3. 3. 5	8/Ⅲ	腹腔	沈渣	250	470	197		++	脾、腸間膜腺、鼠蹊腺(注射部位)	脾、腹間膜腺、肺門腺、鼠蹊腺(注射部位化膿)
						,,	,,	210	485	96	不	++	腸間膜腺	腸間膜腺
						皮下	,,	230		生存	施			
						,,	,,	250	445	96	行	++	脾、鼠蹊腺、腸間膜腺、肺門腺	同　上
						,,	原液	210		生存				
						腹腔	,,	190		生存				
2	三機兵 [redacted]	胸腹膜結核	3. 1. 中旬	3. 2. 19	10/Ⅲ	皮下	沈渣	250	450	85				鼠蹊腺、腸間膜腺輕度ニ腫
						,,	,,	380		生存				
						腹腔	,,	380		,,				變化ナシ
						,,	,,	300		,,	(+)	−		
						皮下	原液	210		,,				
						腹腔	,,	230		,,				
	二機兵	左				皮下	沈渣	250	495	51		++	鼠蹊腺、腋窩腺、腸間膜腺、肺門腺	同　上
						,,	,,	220	520	51		++	右　同	同　上

3	[redacted]	胸膜炎	3. 9. 26	3. 9. 30	12/IV	腹腔	,,	200		卽日死亡	(+)			
						,,	,,	180		右同				
						皮下	原液	220	580	51		++	鼠蹊腺、腋窩腺、腸間膜腺、肺門腺	同　上
						腹腔	,,	230	500	51		++	右　同	同　上
4	三水 [redacted]	右胸膜炎	3. 4. 3	3. 4. 16	1/V	皮下	原液	225	420	58		++	脾、大網膜、腸間膜腺、鼠蹊腺肝、肺門腺腋窩腺	同　上
						腹腔	,,	225	360	死亡 48		++	脾臓、大網膜、腸間膜腺腋窩腺、肺門腺	同　上
						皮下	上清	205	450	70	(+)	−		(鼠蹊腺輕度ニ腫脹セシノミ)
						腹腔	,,	215	440	70		+	腸間膜腺、鼠蹊腺	同　上
						皮下	沈渣	240	370	49		++	腋窩腺、鼠蹊腺、腸間膜腺、脾、肺門腺	同　上
						腹腔	,,	230	410	70		++	腸間膜腺、肺門腺	同　上
5	三看兵 [redacted]	左胸膜炎	3. 4. 18	3. 4. 26	4/V	皮下	原液	215		生存				
						腹腔	,,	260		,,				
						皮下	上清	230	480	87		++	肺門腺、腸間膜腺脾鼠蹊腺	同　上
						腹腔	,,	230		死亡 2	(+)			
						皮下	沈渣	215	475	,, 86		+	鼠蹊腺	鼠蹊腺、屍ハ鼠ニ喰ハシ其化變化小町
						腹腔	,,	220		,, 2				
6	四水 [redacted]	左胸膜炎	3. 2. 20	3. 2. 23	11/V	皮下	原液	270		120		−		
						腹腔	,,	345		生存				
						皮下	上清	260		,,	(+)			
						腹腔	,,	360		,,				
						皮下	沈渣	270	370	59		++	肺門腺	同　上
						腹腔	,,	295	390	59		+	鼠蹊腺	同　上
7	學生 [redacted]	左胸膜炎	3. 2. 初旬	3. 5. 4	11/V	皮下	原液	240	400	82		+	鼠蹊腺、肺門腺	鼠蹊腺、肺門腺腸間膜腺
						腹腔	,,	310 350		1.死亡卽日 2.死亡				
						皮下	上清	290	530	82	(+)	−		
						腹腔	,,	290		卽日死亡				
						皮下	沈渣	250	450	82		++	鼠蹊腺	腸間膜腺、脾、鼠蹊腺、注射部皮下
						腹腔	,,	260	370	82		+	胃、脾	脾、胃ノ外面

8	[redacted]	右胸膜炎	3. 5. 20	3. 6. 7	8/VI	皮下	原液	250		生存					
						腹腔	,,	240		死亡 5					
						皮下	上清	210	480	86	(+)	−			
						腹腔	,,	425		1.卽日死亡 2.死亡 3					
						皮下	沈渣	210	370	死亡 51		−			
						腹腔	,,	300		生存					
9	四機兵 [redacted]	右胸膜炎	3. 6. 7	3. 6. 9	12/VI	皮下	原液	265		生存					
						腹腔	,,	290	480	92		+	腸間膜腺	同　左	
						皮下	上清	235		生存	(+)				
						腹腔	,,	230		死亡 2					
						皮下	沈渣	215		生存					
						腹腔	,,	295	490	92		−			
10	二水 [redacted]	左胸膜炎	3. 6. 16	3. 6. 21	22/VI	皮下	原液	360		生存				レーメル陰性腺腫脹セズ	
						腹腔	,,	370		死亡 11					
						皮下	上清	325		生存	(+)			,,	
						腹腔	,,	340		死亡 11					
						皮下	沈渣	255		生存				,,	
						腹腔	,,	320	495	94		+	鼠蹊腺	鼠蹊腺、腸間膜腺	
11	三水 [redacted]	右胸膜炎	3. 4. 23	3. 5. 15	22/VI	皮下	原液	365		生存				レーメル陰性腺腫脹ナシ	
						腹腔	,,	353		生存				,,	
						皮下	上清	305		生存	(+)			,,	
						腹腔	,,								
						皮下	沈渣	385		生存				,,	
						腹腔	,,	370	485	6		−		變化ヲ認メズ	
12	二機兵 [redacted]	肺結核左胸膜炎	2. 8. 12	2. 8. 20	8/IV	皮下	沈渣	120		67		++	鼠蹊腺、腸間膜腺肺腺門、肝脾肺	同　左	
						,,	,,	320		67		++	肺ノ外上記＝同ジ	同　左	
						腹腔	,,	350		67		++	同　上	同　上程度甚シ	
						,,	,,	360		67	(不)	++	同　上	同　上程度甚シ	
						皮下	原液	420		67		++	鼠蹊腺、腸間膜腺淋巴腺、肺門腺	同　左肝脾、著變無シ	
						腹腔	,,	360		67		++	同　上	右　同	

13	三看兵 [redacted]	肺結核右胸膜炎	2. 8. 12	2. 8. 20	11/V	皮下	沈渣	370	495	90		++	鼠蹊腺、腸間膜腺脾	鼠蹊腺、腸間膜腺、脾、肺門腺腫脹
						,,	,,	390						
						腹腔	,,	210	400	90		+	腸間膜腺	腸間膜腺
						,,	,,	230			(+)			
						皮下	原液	360	435	90		−		鼠蹊腺、腸間膜腺僅カニ腫大ノミ
						腹腔	,,	420						
14	三機兵 [redacted]	右胸膜炎	3. 1. 9	3. 11. 17	1/II	腹腔	沈渣	305	590	82		+	表在腺、肺門腺、腸間膜腺	同　左
						皮下	,,	360	530	82		+	表在腺	表在腺、肺門腺脾
						腹腔	,,	390	630	87	(+)	+	表在腺、肺門腺、腸間膜腺	同　左
						皮下	,,	240	720	87		−		腸間膜腺
15	四機兵 [redacted]	肺炎、胸膜炎「クループ」性		3. 1. 12	4/II	腹腔	沈渣	330	510	82		−		
						皮下	,,	340	680	91		−		
						,,	,,	300	630	91	(−)	−		腸間膜腺
16	一機兵 [redacted]	肺結核ニ轉症右胸膜炎三月十六日	3. 1. 21	3. 1. 24	24/III	腹腔	沈渣	230	450	91		+	腸間膜腺、肺門腺脾	同　左
						,,	,,	280	550	80	(不)	+	腸間膜腺	肺門腺、腸間膜腺
						皮下	リン沈渣及ヒブ 埋沒	390	540	80		+	表在腺、脾肝	表在腺、腸間膜腺、脾肝
						,,	,,	285	590	91		+	表在腺、腸間膜腺脾、肺門腺	表在腺、腸間膜腺、肺門腺、脾
17	[redacted]	右胸膜炎	3. 1. 20	3. 2. 1	6/II	腹腔	沈渣	260	480	72	雜菌混入	−		腸間膜腺
						,,	,,	380	670	88		−		腸間膜腺
						,,	,,	250	505	88		−		腸間膜腺
						皮下	,,	210	450	78		−		表在腺、腸間膜腺
						,,	,,	320	560	88		−		
,,	[redacted] (第2回)	右胸膜炎	3. 1. 20	3. 2. 1	16/II			240	540	82		−		−
						皮下	,,	500	690	79	不成功雜菌混入	−		肺門腺
							上清			死亡2				
							,,			死亡1				
							原液			死亡2				
							,,			死亡1				
	三水(第	右				腹腔	沈渣	260	710	207		−		表在腺、腸間膜腺

	■3回)	胸膜炎	3. 1. 20	3. 2. 1	3/II	,,	,,	300	670	210	(−)	−		腸間膜腺
						皮下	,,	240	725	242		−		
18	三水 ■	右胸膜炎	龜病轉歸	3. 2. 16	18/II	腹腔	沈渣	160	400	91		−		
						,,	,,	230	540	69		−		
						皮下	,,	200	650	91		−		表在腺、腸間膜腺
						,,	リン理沒沈渣及ヒブ	170	500	69	(−)	−		腸間膜腺
19	二水 ■	左胸膜炎	龜病轉歸	3. 2. 25	29/II	腹腔	沈渣	240	560	58		+	腸間膜腺、肺門腺	同　左
						,,	,,	330	590	79		+	深部腺、腸間膜腺脾肝	同　左
						皮下	,,	220	540	58	(不)	+	表在腺、肺門腺、腸間膜腺	表在腺、肺門腺腸間膜腺、脾肝
						,,	,,	240	530	94		+	表在腺、肺門腺	同　左 腸間膜腺
20	三主兵 ■	左胸膜炎	3. 2. 10	3. 2. 22	12/III			170	480	105		+	表在腺、肺門腺、脾腸間膜腺	同　左
								210	580	105	(不)	−		−
								190	460	105		+	表在腺、深部腺	同　左
								150	460	105		−		表在腺、腸間膜腺
								220	520	105		−		−
										卽日死亡				
,,	三主兵 ■ (第2回)	左胸膜炎	3. 2. 10	3. 2. 22	26/IV	腹腔	沈渣	170	390	62		+	表在腺、深部腺、大網膜網膜內面、肺門腺	同上及脾
						皮下	,,	230	390	47		+	表在腺、深部腺	同　左
						腹腔	上淸	250	550	103	(+)	+	表在腺	表在腺 腸間膜腺
						皮下	,,	160	405	62		+	表在腺、深部腺、肺門腺胸腔內面、脾	表在腺、深部腺肺門腺胸腔內面
						腹腔	原液	180	460	103		+	表在腺、腸間膜腺脾	同　左
						皮下	,,	300	540	103		+	表在腺、肝	表在腺、腸間膜腺肺門腺、肝脾
21	一主曹 ■	左胸膜炎	3. 2. 5	3. 2. 21	12/III	皮下	沈渣	176	360	57		−		−
						腹腔	,,	170	430	57	(+)	−		−
						皮下	原液	220	430	57		−		−
						腹腔	,,			卽日死亡				
22	三看兵 ■	右胸	3. 3. 2	3. 3. 5	15/III	腹腔	沈渣	150	320	118		+	表在腺、腸間膜腺肺門腺、大網膜、腸管、肝脾	同　左
						,,	,,	200	440	122		+	肺門腺、腸間膜腺脾肝、副睾	肺門腺、腸間膜腺、肺、脾、肝睾丸
						,,	,,			卽日死亡	(不)			

	[redacted]	膜炎				皮下	沈渣及リンパ	250	520	71		+	表在腺	表在腺、肺門腺脾
						,,	原液			即日死亡				
						,,	,,	285	560	122				
23	二曹 [redacted]	左右胸膜炎	3. 1. 5	3. 2. 14	17/Ⅲ	腹腔	沈渣	310	520	80		−		−
						皮下	,,	160	400	80		−		−
						腹腔	上清	370	600	80	(+)	−		−
						皮下	,,	280	600	108		−		−
						腹腔	原液	330	610	108		−		−
						皮下	,,	290	620	108		−		−
,,	二曹 [redacted] (第2回)	左右胸膜炎	3. 1. 5	3. 2. 14	2/IV	腹腔	沈渣	370	395	105		+	肺、肺門腺、大網膜、脾	
						,,	,,	290	660	100		−		表在腺、腸間膜腺
						皮下	,,	320	530	53	濃厚	+	表在腺	表在腺、腸間膜腺、肺門腺
						腹腔	上清	410	590	90		−		腸間膜腺
						皮下	,,	290	500	死亡 85		+	表在腺、脾	表在腺、腸間膜腺、脾
24	兵校生徒 [redacted] (第1回)	左右胸膜炎	3. 3. 13	3. 3. 18	31/Ⅲ	腹腔	沈渣	240	540	168		+	表在腺、脾、肺門腺、腸間膜腺	同　左
						,,	,,	180	560	180		−		腸間膜腺
						皮下	,,	230	550	180	(−)	−		−
						,,	,,	150	440	178		+	表在腺、脾、肺門腺、腸間膜腺	同　左
						腹腔	原液	320	660	182		−		−
						皮下	,,	210	610	182		−		−
,,	兵校生徒 [redacted] (第2回)	左右胸膜炎	3. 3. 13	3. 3. 18	26/IV	腹腔	沈渣	150	390	65		+	表在腺、肺門腺脾深部腺	表在腺、深部腺肺門腺、腸間膜腺、脾
						皮下	,,	220	385	46		+	表在腺、深部腺	同　左
						腹腔	上清	200	600	165	(+)	−		−
						皮下	,,	200	630	165		−		−
						腹腔	原液	150	570	168		−		−
						皮下	,,	190	565	168		−		−
25	四水 [redacted]	右胸膜	3. 4. 8	3. 4. 9	14/IV	腹腔	沈渣	220	430	59		+	大網膜、胃外壁	大網膜、胃外壁肝
						皮下	,,	230	520	115		+	表在腺、肺門腺	表在腺、肺門腺腸間膜腺、脾
						腹腔	上清			死亡 2	(+)			
						皮下	,,			死亡 10				

	[redacted]	炎				腹腔	原液			死亡 6				
						皮下	,,	190	470	115		+	表在腺、肺門腺	表在腺、肺門腺 腸間膜腺
26	兵校生徒 [redacted]	右胸膜炎	3. 4. 8	3. 4. 9	14/IV	腹腔	沈渣	400	365	84		+	腸管、肝、脾	肺門腺、腸間膜腺、腸管、肝脾
						皮下	,,	340	540	84		+	表在腺	表在腺、腸間膜腺
						腹腔	上清			死亡 10	(+)			
						皮下	,,	220	655	168		−		表在腺、腸間膜腺
						腹腔	原液	300	620	168		−		表在腺、腸間膜腺
						皮下	,,			死亡 4				
27	給仕 [redacted]	右胸膜炎	3. 4. 20	3. 5. 12	26/V	腹腔	沈渣			死亡 1				
						皮下	,,	440	545	103		−		表在腺、腸間膜腺
						腹腔	上清	335	420	95		−		−
						皮下	,,	350	460	95	(不)	−		−
						腹腔	原液			死亡 1				
						皮下	,,	250	505	103		−		表在腺、腸間膜腺
28	二機兵 [redacted]	右胸膜炎	龜病轉歸	3. 5. 25	26/V	腹腔	沈渣	260	520	112		+	肺門腺、脾	肺門腺、脾肝、腸間膜腺
						皮下	,,	200	280	30		+	表在腺、脾、腸間膜腺	同　左
						腹腔	上清	200	380	72		+	深部腺	腸間膜腺、深部腺
						皮下	,,	190	360	112	(+)	+	深部腺、表在腺	表在腺、深部腺 腸間膜腺
						腹腔	原液	200	380	70		+	腸間膜腺、大網膜	表在腺、大網膜 腸間膜腺
						皮下	,,	390	540	89		+	表在腺、肺門腺、脾、肝	同　左
29	機曹長 [redacted]	右胸膜炎	3. 5. 上旬	3. 6. 12	12/VI	腹腔	沈渣			卽日死亡				
						皮下	,,	355	500	98		+	表在腺、肝、脾腸間膜腺、肺門腺	同　左
						腹腔	上清	225	400	99	(+)	−		
						皮下	,,	250	450	98		+	表在腺、脾	表在性、肺門腺 腸間膜腺、脾肝
30	四水 [redacted]	左胸膜炎	3. 6. 1	3. 6. 14	14/VI	腹腔	沈渣	240	380	死亡 32		+	表在腺、肺門腺、腸間膜腺	同　左
						皮下	,,	295	475	107		+	表在腺、深在腺	表在腺、深在腺 脾
						腹腔	上清	260	585	140	(+)	−		
						皮下	,,	300	545	140		−		表在腺
						腹腔	原液	255	560	140		−		表在腺
						皮下	,,	350	565	83		+	表在腺、腸間膜腺 肺門腺、脾	同　左
	二機兵	右				腹腔	沈渣	255	355	48		+	腸間膜腺、肺門腺 脾	同　左
						皮下	,,	225	400	60		+	表在腺、深部腺、脾	表在腺、深部腺 腸間膜腺、脾

31	[redacted]	胸膜炎	3. 5. 25	3. 5. 31	19/VI	腹腔	上清	285	520	61	(+)	−		−
						皮下	〃	345	625	61		−		−
						腹腔	原液	315	580	63		−		−
						皮下	〃	255	490	63		−		−
32	二看曹 [redacted]	左胸膜炎	3. 6. 20	3. 6. 25	25/VI	腹腔	沈渣			死亡 1				
						皮下	〃	235	400	96		+	肝、腸間膜腺	肝、腸間膜腺、肺門腺
						腹腔	上清			死亡 3	(+)			
						皮下	〃			死亡 6				
						腹腔	原液			死亡 1				
						皮下	〃	235	450	死亡 79		+	表在腺、深部腺、腸間膜腺、肺門腺脾肝、肺	同　左

三、實驗成績

(1) 胸液採取セシ胸膜炎患者32名內動物檢査ニ依リ結核菌陽性ナリシモノ24名(74.4%)。

(2) 陽性ナリシモノ24名中3名ハ最初ハ胸膜炎ナリシモ後肺結核ト診定サレタリ。

(3) 海猪ニ注射シタル胸液(原液)其ノ沈渣竝ニ沈澱上清液ノ種類ニヨリ其ノ陽性率ニ差ヲ示セリ之レヲ表示スレバ次ノ如シ

胸液ノ種類(上清、原液、沈渣)及其ノ注射部位ト陽性率トノ比較

胸液ノ種類	注射部位	胸膜炎患者數	培養菌陽性數	百分比	平均對患者數百分比
沈渣	皮下	32	22	68.75%	76.56%
沈渣	腹腔	32	27	84.38%	
原液	皮下	27	6	22.22%	24.07%
原液	腹腔	27	7	25.93%	
上清	皮下	20	6	30.00%	25.00%
上清	腹腔	20	4	20.00%	

(4) 胸液ノ種類及其ノ注射部位ト猪海死亡率トノ關係ヲ比較シ見ルニ下ノ如シ

胸液ノ種類	注射部位	胸膜炎患者數	使用セシ海猪ノ死亡數	百分比
沈渣	皮下	33	1	3.33%
沈渣	腹腔	33	1	18.18%
原液	皮下	28	4	14.28%
原液	腹腔	28	9	32.86%
上清	皮下	21	4	19.43%
上清	腹腔	21	10	48.76%

四、總括

1. 胸液ハ帶黃色透明弱「アルカリ」性ナリ。
2. 比重ハ1.022—1.025ナリ。
3. 蛋白含有量ハ60—70‰ナリ。
4. リバルタ氏反應ハ常ニ强陽性ナリ。
5. 檢査患者32名(外1名ハ海猪注射當日ニ全部死亡セルニ依リ除外)中動物試驗上結核菌陽性ナリシ者24名(75%)ナリ。
6. 結核性變化ノ最モ多カリシハ鼠蹊腺ニシテ腸間膜腺、腋窩腺、肺門腺之ニ次ギ少數例ニ於テ脾臟、肝臟、胃壁大網膜及腹壁注射部皮下ニ「ツベルケル」ヲ認メタリ。
7. 菌陽性率ハ沈渣ヲ注射セルモノニ最モ多ク平均75.6%ニシテ原液及上清ヲ注射セルモノハ殆ンド同等ニシテ沈渣ヲ注射セルモノニ比シ約3分ノ1ノ陽性率ヲ示セルニ過ギズ。
8. 胸液注射後數日以內ノ海猪死亡率ハ前表ニ

見ル如ク腹腔注射ニ多ク皮下注射ハ遙ニ少シ且腹腔皮下注射共ニ上清ニ甚シク多ク原液沈渣ノ順ニ劇減セリ最大上清液ノ腹腔注射ノ48.76％ニ比シ最少沈渣腹腔注射ノ3.33％ニシテ斯ノ如キ著明ナル差ヲ示セルハ興味アルコトヽ信ズ。

9. 胸液ヲ「ベスレドカ」培養基ニ培養シタルモノ32例中26例結核菌ヲ培養シ得タルモノ(陽性)23例88.46％ナリ尙詳細ハ海軍軍醫大佐勝正吉報告ス

(勝軍醫大佐ノ實驗ニヨレバ胸液培養陽性率90％以上ナリ)

(昭和4年4月脫稿)